

海外所在の日本歴史資料について (I)

埴 叡

はじめに

日本歴史の資料はどのくらい存在しているのか、想像もつかないのが現状である。しかし過去に関することであるから、将来無限にふえつづけるといったものではない。ただ我々がその存在を知らないだけのある一定の量であろう。ここに資料といって史料としなかったのは、文書・記録はもとよりひろく絵画・工芸品・日用の道具を含めて日本歴史研究に役立つものすべてという意味である。日本歴史研究の基礎作業として、国内はもとより、国外にあるものの確認を、たとえばどんな微細なものであっても見逃さずに調査することが必要であり、何年かかかって書きためたノートをもとに、若干の整理をこころみる次第である。なかにはすでに散逸したものもあるかも知れず、所蔵場所自体がなくなったり、改組されたりしたものもあるかも知れない。また今後もおこりうることである。今後絶えず補訂を続けなければならないと感じている。なお本稿を草するにあたってはすでによく知られている目録、例えば東大史料編纂所編の『日本関係海外史料目録』や『在外奈良絵本』(角川書店)、ロバート・K・ダグラス編、大森実解説による『大英博物館所蔵和書目録』『同補遺編』(科学書院)や、富永牧太氏の作製した「キリシタン版所在目録」(『古文書研究』第16号、吉川弘文館)、松田毅一氏の『在南欧日本関係文書探訪録』養徳社、1964をはじめとする一連の研究書で知りうることは除外している。しかし新しい発見にかかるものは知りうる限りのべ、またこれらの資料を利用した研究書をできるだけあげることにしてある。もとより一個人の不完全な仕事にすぎないし、また仮に内外のあらゆる資料の存在を知ることができたとしても、その総体イコー

ル日本歴史となるわけでもない。あくまで歴史研究のための基礎作業であることに変わりはない。とりあえず、紀要論文に分載の形になるが、将来は一本にまとめることができたならばよいと考えている。現在世界的な日本、あるいは日本歴史、日本文化に関する関心の高まりの中で、本家本元の我々がやるべきことの一つではなかろうかと思うわけである。イエズス会を中心とする南蛮関係や蘭学関係の分野は近年とくに研究が進んでいるが、全体としてはかたよりがみられ、研究が遅れている間にも資料の散逸が進行していることを恐れている。

A. ヨーロッパ

(イ) イギリス

(1) アシュモリアン美術館(オックスフォード)

ラルフ・アンドリュウ・ハラリーコレクションがあり、北斎の「職人画帖」、 「武人画帖」その他、広重の「画帖十図」、鳥居清信・鈴木春信・鳥文斎栄之の作品がある。また17・18世紀の伊万里焼150点を所蔵し、インピー博士(O. R. Impey)の“Eastern Ceramics”(図録)がある。さらに明治8年来日したドイツ美術商サミュエル・ビングのコレクションもある。

(2) イギリス外務省

愛知県知多郡美浜町小野浦良参寺に過去帳のある岩吉直筆の「天保三辰年十月十一日志州鳥羽浦湊出」がある。(川合彦充『日本人漂流記』教養文庫、p.74)

(3) ウォー・チョップ女史

R. H. ブラントン(女史はその子孫)旧蔵50枚つづりのF・ベアトの「写真帳」を所蔵する。横浜開港資料館が借用しているが、大坂城・神戸台風の惨状・根岸競馬場、珍しいものとして明治4

年の米海兵隊江華島上陸の写真がある。「古写真にみる幕末・明治」—『歴史読本別冊』1987.7.15, p.174-175)

(4) 王立キュー植物園

英公使パークスが集めた和紙コレクションがある。

(5) 王立地学協会 Royal Geographical Society

長久保赤水作かといわれる「日本地図」、およびブラキストン書翰を所蔵している。(保柳睦美編著『伊能忠敬の科学的業績』p.212)

(6) オックスフォード大ボドレイ文庫

Bodleian Library

ウィリアム・アダムス『航海記』や奈良絵本(4点)、ケンペル『日本誌』、シーボルトの『日本』がある。(『ボドレイアン図書館所蔵の日本関係図書及び文書展目録』1985.12.2~6, オックスフォード日本週間) また「いんきらていらあて慶長一八年九月一日付朱印状」もある。(永積洋子「ボドレイアン図書館所蔵朱印状について」(『日本歴史』457号, 1987.4, p.31~, 口絵)

(7) 旧印度省古文書館(ロンドン)

1673年6月29日長崎に来航したリターン号の「航海日誌」(写本)がある。(ろじゃ・めいちん「日英交渉史の一場面に幕が降りる」COSMICA, 1980, X, p.1~19, 京都外国語大学)

(8) ケンブリッジ大図書館

W・アストンの日本文学に関するコレクションが知られる。たとえば、絵入本の近松『心中二枚絵草紙』など。(『近松門左衛門集一』日本古典文学全集, 小学館) 未整理の“various”部門に蔵書目録16点があり, その中に『王堂蔵書目録』“Books in Chamberlain's Library”がみえる。(楠家重敏『ネズミはまだ生きている』雄松堂, 1986.11, p.350~351) 別にジャーディン・マセソン Jardine Matheson 商会文書として, 元帳・仕訳帳など帳簿類と書簡帳・商況報告書がある。(石井摩耶子「19世紀後半の中国におけるイギリス資本の活動」社会経済史学45巻4号, 1979, p.1~33)

(9) 国立海事博物館 National Maritime Museum (グリニッジ)

文久3年(1863)アクテオン号が利用したといわれる3枚の「伊能図小図」がある。

(10) スコットランド王立博物館(エジンバラ) マンローの日本関係コレクションがある。

(11) 大英図書館 British Library

長崎奉行内藤安房守忠明の用人荒井太右衛門筆の「蘭人参府御暇之節検使心得方」がある。(『日蘭学会会誌』第4巻1号, 1979.9)

(12) 大英博物館

① 1680年ごろの「Kempthorneの図」は「御朱印船航海図」中の日本の地形によく似ているといわれる。(中村拓「東亜の古地図」横浜市立大学紀要 No.88, 1958.3, p.186)

② Kaempfer に関する Hans Sloane コレクション(今井正「ケンペルの日本文庫」『学燈』Vol.80, No.7, 1983.7.5, p.12~)

③ 英測量艦 Blossom 号が集めた(1827)オガサワラマシコ, ハシブトゴイの標本がある。「高島春雄『動物物語』八坂書房, p.305)

④ 明治6年から13年まで日本にいた医師ウィリアム・アンダーソン(1842~1900)の3,500点にのぼる日本絵画の中に, 最近発見された『藤森祭図巻』がある。また『秘蔵浮世絵大観』1, 大英博物館1が刊行された。(講談社, 1987年6月)

⑤ 1873年10月11日横浜に着いたお雇い外国人アンダーソン(1842~1900)が1898年に編纂した『大英博物館所蔵和書目録』が1986年7月に科学書院から刊行された。(大森実解題)そして『補遺篇』も同年9月刊行されている。

館内に「日本ギャラリー」に近い将来完成すると伝えられるが, 大英博物館・図書館の日本関係資料の全体を把握することは非常に困難である。

(13) チェスター・ビーティ図書館 The Chester Beatty Library and Gallery of Oriental Art, Dublin

奈良絵本は有名であるから省略する。(反町茂雄編『愛蘭国ダブリン・チェスター・ビーティ・ライブラリー蔵日本絵入本及絵本目録』弘文荘, 1979) 768年5月20日墨書の『百万塔陀羅尼經』が存在する。さらに狩野山雪(1590~1651)が画

く『長恨歌絵巻』2巻がある。(川口久雄『長恨歌絵巻』大修館)

(14) テムズ海軍学校(ロンドン)

東郷平八郎の「成績表」が保存されている。

(15) Public Record Office(国立文書館, ロンドン西郊 Kew Gardens)

日英外交文書の所蔵で知られている。最近の研究成果のみ2,3あげておく。

① Delboe, Simon, Japan Diary, from 29th June to 28th August 1673(写本)(ろじゃ・めいちん「日英交渉史の一局面に幕が降りる」COSMICA, 1980, X, 京都外国語大学, p.3)

② 楠家重敏「日本関係イギリス外務省文書について」『古文書研究』第22号, 1982.12, p.19~39)

③ フランスの写真家 Rossier が撮った「造成中の大浦居留地写真」がある。(『F・ベアト幕末日本写真集』横浜開港資料館, 1987.2.1, p.193)

(16) バーリーハウス Burghley House(スタッフオード)伊万里焼のコレクションがある。「Catalogue of Burghley House」が作られている。

(17) ハンプトンコート宮殿 Hampton Court Palace(ロンドン郊外)

メアリー女王のコレクション中に中国の陶器と日本の伊万里18点を所蔵する。

(18) ビクトリア・アンド・アルバート美術館 Victoria and Albert Museum(ロンドン・サウスケンジントン地区)

① 勝川春朗時代の北斎の版下絵がある。「風流東都方角隅田川木母寺の図」, 「根津権現の図」, 「神田明神」などである。ほかに歌川国芳コレクション等浮世絵が多い。

② パークス蒐集の和紙コレクションには郷土玩具, 傘, ちょうちん, 大福帳などがみられる。

(19) 東インド会社記録資料図書館(ロンドン)ウィリアム・アダムスの書状を所蔵する。

(20) 南ケンジントン博物館 Kensington 1871年のパークス報告書および1979年に発見された和紙の見本がある。

(21) メードストーン市役所

三浦按針の受洗簿が保管されている。「ジョン・アダムスの息子ウィリアム・アダムス 1564年9月24日洗礼を授く」とある。

(22) ロトウダ大砲博物館

いわゆる馬関戦争のさい捕獲された長州藩の大砲二門があり, 「壺貫玉, 試薬五百目, 地矢倉一寸一分」とある。

(23) ロンドン大学アジア・アフリカ校 the

School of Oriental and African Studies

1620年マカオ刊でローマ字で書かれた『日本小文典』と1549年の丙種本『華夷訳語』がある。「ロンドン大学東洋アフリカ校所蔵日本古典籍善本解題並に目録」, 林望(東横学園女子短期大学『東横国文学』第18号, 1986.3)「日本館訳語」はモリソンが1824年中国から将来した書の一であり, 「琉球館訳語」とあわせて, 京都大学国語国文学研究室編『纂輯日本譯語』1968, p.1~10, 169~178に収録されている。

(ロ) イタリア

(1) アポストリカ図書館(バチカン)

「1621年しゃねいろの二日教皇パウロ五世あて畿内キリシタン奉答書」を所蔵する。

(2) アラチェリ教会(ローマ)

「教会日記」中に支倉六右衛門のローマ到着を記載する。

(3) アルベルティーナ美術学校(トリノ王立)

1877年6月15日弟子のカルロ・ストラッタあて書翰などフォンタネージ関係史料がある。(岩倉翔子「フォンタネージ来日の経緯」『日本歴史373』1979.6. p.63)

(4) アンジェリカ図書館 Biblioteca Angelica(ローマ)

「支倉常長銅版肖像」をのせるアルバムがあり, 懐紙一枚もある。1597年5月長崎に到着したカルレッティ Carletti, Francesco の『世界一周』の稿本がある。ちなみに英訳本は1965年ロンドンで出版された。

(5) アンブrosiアーナ図書館(ミラノ)

Biblioteca Ambrosiana

『ウルバーノ・モンテ年代記』があり, 天正少年使節の肖像画をのせる。

(6) イエズス会本部

『Afonso de Lucena 記録』中に 1578 年来朝した Manoel Barreto の事蹟がみえる。

(7) イル・ジェスー聖堂 (ローマ)

元和五年村山徳安・レオナルド木村の『長崎殉教図』がある。

(8) カサナテンセ図書館 Biblioteca Casanatense

① 松田毅一・沢井浩三「カサナテンセ図書館所蔵日本文書」(『キリシタン研究第六輯)が参考となる。また松田氏の「カサナテンセ図書館の日本関係文書」(『COSMICA』1982, XII, 京都外国語大, p.160~161)もある。

② 永禄十一年~十二年(1568~69)のバレンワラレジオ Vallaregio の『貴理師端往来』、『日本のアルファベットとその文例』が所蔵されている。

(9) 教皇庁文書館 Archivio Vaticana

シビオネ・アマチ『日本総体記』がある。(岡本良知「バチカン文書」『切支丹論叢』小宮山出版, 1953.12, p.106~116)

(10) グレゴリアーナ大学(教皇庁立・ローマ) ジョゼッペ・バレリアーノ画く『ヨーロッパ内外に設立されたセミナリオとコレジオ』(1584)があり, "Iaponicum" (日本の) の文字もみえる。府内コレジオへの助成金下賜の図かといわれる。

(11) サン・アントニオ寺院 (ローマ)

慶長元年十二月十九日の『26 聖人殉教図』がある。

(12) ジェノバ東洋美術館

キオッソーネコレクションは二曲一双の『源平合戦図屏風』をはじめ多種にわたっている。中でも歌麿のお染久松, 八百屋お七小姓吉三, 心中万年草のお梅久米之助をえがいた『道行三幅対』は現存唯一の遺品といわれる。(小林忠解説) (『秘蔵浮世絵大観』一, 大英博物館 I, 講談社, 1987. 6. 付録) 同書第十巻『ジェノバ東洋美術館』I も刊行された。

(13) スペイン大使館 (バチカン)

1588 年ゴアで刊行されたラテン・ローマ字による『原マルチノ演説』は日本人コンスタチヌス・

ドゥラトゥス *Constatinus Douratus* の印刷したものである。

(14) 聖サベリオ宣教会本部 (Parma)

フランシスコ・ザビエルの書簡がある。(シュールハンマー, ヴィッキ編『聖フランシスコ・ザビエル書簡・文書』1944~45, ローマイエズス会歴史研究所刊)

(15) 地震学博物館 (ナポリ)

ここは旧ヴェスヴィアス観測所で, 明治9年12月28日付けの「大久保利通礼状」を所蔵する。

(16) バチカン宮殿

シスト五世の間に伊東マンショら教皇ラテラノ教会行幸参加図(壁画)がある。

(17) バチカン図書館

バルベリーニ文書の中に日本人クリスチャンからパウロ五世への手紙5通がある。

さらに口之津信徒42名連署の誓詞も存在する。

(18) バチカン美術館

前田青邨画く「細川ガラシヤ」(1974)が保存されている。

(19) バチカン文書館

支倉六右衛門の携行した文書は貴重箱に収められている。伊東マンショからベニス大統領あて感謝状もある。

(20) ビットリオ・エマヌエーレ国立図書館 (ローマ) Biblioteca Nazionale Centrale Vittorio Emanuele

1582年のアントニオ・ミーロの「平面世界図」がある。(岡本良知『十六世紀における日本地図の発達』p.21)

(21) ビチェンツァオリンピア劇場

天正少年使節一行歓迎場面の壁画がある。

(22) Biblioteca Academia di Belle Arti, Firenze

Bartolomeu Velho 作アトラス(1561)がある。(岡本良知『十六世紀における日本地図の発達』p.19, 20)

(23) フィレンツェ国立文書館

メディチ家の文書館であり, 1585年3月の「行基式日本図(写し)がある。東が上になっている唐招提寺図の一種と考えられる。(織田武雄『古

地図の世界』 p. 233)

(24) フィレンツェ人類・民族学博物館

フォスコ・マライニコレクションがあり、北海道アイヌ資料を400点所蔵している。

(25) プロパガンダ・フィデ文書館 (ローマ)

Aachivio di Propaganda Fide

シドチ (1708 来日) 関係文書がある。

(26) ベニス東洋博物館

19世紀にバルディ伯爵が集めた日本古美術品がある。

(27) ベネチア国立文書館 Real Archivio di

Stato, Venezia

1616. 1. 1 支倉六右衛門長経の自署・花押のある書状、および同年 2. 24 付けジェノアからベネチア元老院あて書状を、岩倉具視遣欧使節一行は明治6年3月29日にはじめて見て、支倉の活動を知った。

(28) ベネチア国立図書館

① 「文禄二年十一月二日付 (1593) フィリピン諸島長官あて豊臣秀吉書翰」がある。「岩生成一『日本南方諸国往復書翰補遺』『南方史学』創刊号, 1972)

② 1585年の「日本図」があり、“Yezogaxima”の文字もみえる。(船越昭生『北方図の歴史』p. 239)

(29) ボルゲーゼ家 (ローマ)

支倉六右衛門像があり、吉田力蔵氏はこれを模写して、現在仙台市博物館にある。

(30) ボローニャ市立文書館

天正少年使節関係記事をのせる「元老院日記」がある。

(31) マントバ国立文書館 Archivio di Stato,

Mantova

1585年8月2日の伊東満所書状がある。(岡田章雄「近世初期の日欧交渉が日本古文書に及ぼした影響」『日本古文学論集 II, 近世 I』吉川弘文館, 1987, p. 268)

(32) ラテラーノ・サン・ジョバンニ教会 (ローマ)

支倉常長の秘書官ドン・アロンソ・ゲキの受洗記録が『授洗帳』(1615. 11. 15) にみえる。

(33) ローマイエズス会文書館 Archivum

Romanum Societatis Jesu

① アフォンソ・デ・ルセナ回想録 (自筆本)

(ヨゼフ・フランツ・シュッテ編, 佐久間正, 出崎澄男訳『大村キリシタン史料—アフォンソ・デ・ルセナの回想録』キリシタン文化研究会, 1985. 11. 23)

② 貿易史料……高瀬弘一郎氏の研究がある。

(「キリシタン教会の貿易収入額について」社会経済史学 40 の 1, 1974, p. 18) (「日本イエズス会の生糸貿易について」『キリシタン研究第十三輯』p. 138~139)

③ 1610年のマードレ・デ・デウス号焼打ち事件史料が存在する。(五野井隆史「1610年長崎沖におけるマードレ・デ・デウス号焼打に関する報告書」『キリシタン研究第十六輯』p. 353~)

④ 『大航海時代叢書 XI』にのせるイスパニア商人アピラ・ヒロンの『日本王国記』(写本)があるが、ペドロ・モレホンの注記が興味をひく。「これは〔一五〕九四年の夏である。油で煮られたのは、ほかでもなく Ixicavagoyemon とその家族九人か十人であった。彼らは兵士のようななりをしていて十人か二十人の者が磔になった。」とある。

(34) ローマ国立中央図書館

イエズス会日本年報がある。1586. 10. 7 下関発, 1588. 2. 20 有馬発, 1614. 10. 25 長崎発である。(五野井隆史「イエズス会日本年報について」『キリシタン研究第十八輯』, p. 317~)

(35) ローマ国立版画館

「キオッソーネ自筆献辞」がある。(近藤映子「お雇い外国人エドアルド・キオソーネ」『歴史読本』人物往来社, 1978, 6月号, p. 278)

(36) ローマ市役所

市役所文書中にバリニャーノ書状 (1599. 10. 8) があり、「津の国の住人、ペドロ・イタミ・ソーミ (伊丹宗味) の記録がみえる。

(37) ローマ人種学博物館

支倉常長使用の懐紙の説明があり、この和紙は白石産といわれている。

(ハ) オーストリア

(1) ウィーンオーストリア応用美術館
広重の『真崎辺より水神の森』、北斎の『木曾街道大野の滝』がある。

(2) ウィーン王立宮廷博物館
シーボルトの次男ハインリッヒ・シーボルトのコレクションがあり、考古・民俗資料 5,200 点を含む。

(3) オーストリア国立図書館
オーストリア政府の東アジア遠征の記録『Novara Expedition』3巻、1861 は日本に直接関係はないが、それにつづくドナウ号遠征 Donau-Expedition は 1869 年日本オーストリア通商条約を成立させたという意味で、注目されるべきものがある。

(4) シュタインハウス (ウィーン郊外ワイトリンガウ村)

陸奥宗光、伊藤博文、伊東巳代治、黒田清隆、松方正義、谷干城、海江田信義のローレンツ・フォン・シュタインあて書状がある。

(5) シューンブルン宮殿 (ウィーン)
Schloss Schönbrunn
「磁器の間」があり、清・マイセン、それに日本の伊万里焼がかざられている。

(二) オランダ

(1) アムステルダム大学
Kornelis van der Palm: Nedelduitsche Spraakkunst voor de Jeugd. Rotterdam, 1769 は馬場佐十郎「西文規範」の原書である。(片桐一男『阿蘭陀通詞の研究』p.520)

(2) アムステルダム王立美術館
Rijksmuseum
柿右衛門の磁器があり、ゴッホの「オー」「橋」も存在する。

(3) アムステルダム植民地研究所
Het Koninklyke Kolonial Instituut
日本の貨幣を収蔵している。

(4) 王立海事博物館
「出島絵図」, 「紅毛風俗屏風」, 伊万里焼がある。

(5) 国立中央文書館 (ハーグ)
① 長崎政所様あて寛永十九年安当仁, 半天満 (アントニオ・ファン・ディーメン) 和文書状……

1642.6.29 東大史料編纂所にマイクロフィルムがあり、『日本関係海外史料目録2』にもものせる。(金井圓「オランダ東インド総督半天満書状」『古文書研究』第27号, 吉川弘文館, 1987.7, p.78~)

② 『クーンラート・クラーメル京都参府日記』……スウェアース・コレクション中にあり, 1626.8.26~11.17 の日記である。(永積洋子訳『キリシタン研究』第二十五輯, p.183~)

③ 1660年ごろの『フィンゴボーンズ図版集』中に大坂城鳥瞰図がある。(第74図)(科野孝蔵『オランダ東インド会社』p.55~)

④ 1643年7月三陸山田湾に入港したオランダ船ブレスケン号の船長ヘンドリック・コルネリス・スハープの日記がある。(永積洋子「南部漂着記」『キリシタン文化研究シリーズNo.9, キリシタン文化研究会)(チースリク「クリスト・ヴァン・フェレイラの研究」『キリシタン研究』第26輯, p.160)

⑤ A.J. ボードイン (1859 来日, 1874 帰国) の書翰を所蔵する。(石田純郎「ロイトルとツワートルー開拓使仮学校女学校のオランダ人女教師たち」『日蘭学会会誌』11巻1号, 1986.10, p.17~)

⑥ オランダが台湾においたゼーランディア城の日記 (1629~1662) 全4巻がある。

⑦ 平戸商館帳簿としては最古の 1620年8月2日の『仕訳帳』をはじめとする貿易史料がある。

⑧ ライデン大の L. ヴリュッセイ氏が発見した『ピーテル・ノイツ関係史料』がある。

⑨ 1667年9月7日死亡した和田理左衛門とオランダ商館員カーレル・ハルチンクの書状(写)および関係文書がある。

⑩ ブロムホフ Blomhoff 文書……卯年 (1819) 三月二十八日付つる・みのの蘭文書状がある。(岩生成一「長崎屋源右衛門の娘からオランダ甲必丹ブロムホフ宛礼状」『日本歴史 232号, 1967.9)

⑪ 1844年のオランダ国王開国進言に対する阿部伊勢守らの返事(弘化二年六月朔日)がある。(森岡美子「ウィレム二世開国勸告に関するオランダ側の事情について」『史学雑誌 84編1号,

p. 60)

(6) 王立植民地研究所 (ハーグ)

1861 出島版の Almanak (当用日記) 1 冊がある。

(7) ツーフ家 (ハーグ)

中津藩主奥平昌高の蘭文書翰がある。(斎藤阿具『ツーフと日本』1923.9.6, 広文館, p.225)

(8) デフェンター市立図書館 Deventer

『長崎港の図』がある。

(9) ドルトレヒト古文書館

幕末のオランダ留学生の『住民登録』がある。赤松大三郎, 上田虎吉のものである。「Akamajoe Daisaburo, 日本海軍の士官, 日本国江戸の生まれ, 二十一歳, 独身, 宗教なし, 現在所 C の 959 番地」(宮永孝『幕府オランダ留学生』p.95~96.)

(10) 日本の森 (アメルスフォルト)

ブロンホフの持ち帰った植物がうえられている。

(11) バルツパッヘル家 (アムステルダム)

六曲一双の『南蛮屏風』がある。

(12) ヒップス木材会社 (ハーグ)

開陽丸の関係資料を所蔵する。

(13) ファン・ゴッホ美術館

広重の『亀戸梅屋舗』のゴッホによる模写絵がある。

(14) ファン・ストルク地図博物館 (ロッテルダム) Atlas van Stolk, Rotterdam

「出島想像図」がある。(長崎市出島市跡整備審議会編『出島図』中央公論美術出版, 1987, p.27)

(15) フリースラント州立図書館 Leeuwarden

Onno Zwier van Haren 文庫がある。J. J. Kalma による『ハン・ハーレン書誌』もある。『日本編』1775, “Van Japan” は翻訳された。(ファン・ハーレン『日本論』井田清子訳, p.198)

(16) プリンセスホフ博物館(リーワールデン)

日本の陶磁器や宋代の青白磁小碗, それに明初の青花竜文天球瓶がある。

(17) フレヒテ博物館, Amersfoort

ブロンホフ関係資料がある。(宮永孝『阿蘭陀商館物語』p.123)

(18) プリンスヘンドリック海事博物館 (ロッ

テルダム)

「Bali 号設計図」があり, これはヤッパン号(咸臨丸)と同型である。

(19) ボードウィン家 (ロッテルダム)

Bauduin

幕末・明治の写真アルバム 3 冊を所蔵する。倉敷市の石田純郎氏がその中の 150 枚を複写して帰られた。(朝日新聞 1983.7.4 の記事による)

(20) メースター・シモン・ファンハイン博物館 (ドルトレヒト)

開陽丸関係文書を所有する。

(21) 国立民族学博物館 (ライデン)

シーボルト⁽¹⁾・ブロンホフ・フィッセルコレクションで知られる。フィッセルの収集品の「目録」は 1831 年 5 月 1 日付のまえがきと自署がある。(庄司三男・沼田次郎訳注のフィッセル『日本風俗備考』, p.284, 平凡社東洋文庫 326, 1978)

日本民俗資料は 50,000 点, アイヌ資料 200 点といわれる。(Josef Kreiner 「ヨーロッパの博物館に所蔵される日本民俗学関係コレクション」『月刊文化財』1982.12) シーボルトコレクション中にはこのほか北斎の水彩画 15 枚, 和紙コレクション 200 種, また別にヤパン・パピエールとよばれるコウゾ製半紙 2,200 枚がある。(久米康生「シーボルトの和紙コレクション」1987.6.24 毎日新聞夕刊による) その他, 安政二年の大地震をえがいた「鯨絵」(瓦版錦絵) や河鍋暁斎の作品がある。(補注 D 参照)

(22) ライデン大学図書館

① ワーグマンの水彩スケッチをベアトが紙焼き写真にしたものがある。「監獄のワーグマンとベアト」「大量の日本貨幣をかつぎ持つ外国人」「横浜居留地外人クラブのパーティ」「薩摩攻撃のためヨコハマを出航するイギリス艦隊」など特色あるものが多く含まれている。(清水勲編『ワーグマン日本素描集』岩波文庫, 1987.7, p.190~191)

② 緒方洪庵『扶氏経験遺訓』, 三谷樸『解体発蒙』(1813) がある。

③ シーボルト蒐集日本和書

④ ヘールツ (A. J. C. Geerts [1843~83]) 旧

蔵和書

例をあげれば『内務省衛生局雑誌』『大日本貨幣史』『山蚕惑問』など雑多な内容である。(大森実「ヘルツ旧蔵和書販売目録」日本歴史 449, 1985.10, p.74~)

(23) ライデン国立烘葉館

シーボルトコレクションは伊藤圭介の標本が多数をしめている。(622点)なお国会図書館伊藤文庫別置本には『シーボルト所蔵烘葉目録』が存在する。

(24) ライデン大学写真絵画博物館(リーワールデン)

安政五年から明治初期にわたる写真およそ800枚があり、大部分はボードウィン家旧蔵である。出島を内側から撮った写真はめずらしい。(2)

(25) ライデン東洋博物館

1860年将軍家茂がウィレム三世におくった『馬図屏風』がある。

(26) メールマンノ・ウェストレーニアヌム図書館(ハーグ)

『出島図』を所蔵する。

(27) ライデン国立自然史博物館

シーボルト動物標本7,000点があり、『ファウナ・ヤポニカ』[「日本動物志」全5巻]に未発表のもので、熊本大の山口隆男氏が発見された。また別に『ファウナ・ヤポニカ』第6巻用草稿とみられるきよく皮動物を画いた原稿32ページ、図版12枚はホルトハウス氏により発見されている。また「ソデグロヅル」の標本3体もある。(高島春雄『動物物語』八坂書房, p.188)

[補注] 1859年来日し、1874年まで滞日したアルベルト・ボードウァンがユトレヒトの姉たちにあてた手紙105通がはじめて訳された。(フォス美弥子訳『オランダ領事の幕末維新』新人物往来社, 1987年8月)所在不明であるが、多分ユトレヒトあたりであろう。

(ホ) スイス

(1) ウェルナー・シンドラーコレクション

広重の『木曾海道六拾九次之内宮ノ越』など浮世絵のコレクションである。(3)

(2) チューリッヒ中央図書館

ブルンチュリにハイデルベルク大学において教えを受けた日本人に平田東助と山脇玄がいる。平田東助のブルンチュリアて明治9年4月20日付の手紙、山脇玄のブルンチュリアて明治11年1月28日付の手紙が残されている。

(3) バーゼル民族学博物館 Museum für Völkerkunde

民俗資料5,000点と、別にアイヌ資料70点がある。

(4) フリブール州立大学図書館

1581年から1654年までのイエズス会士報告がある。

(5) ベルサン連邦古文書館

幕末日瑞関係史料を所有する。

(6) スイス連邦文書館(ベルン)

エーメ・アンベール Aimé Humbert (1819~1870)の「日本国に特派された使節団に関する一般報告書」(1864.6.30)がある。

(7) ボー(Baur)コレクション

鍋島の「色絵山吹図皿」がある。

(8) ルツェルン州立文書館 Staatsarchiv des Kantons Luzern

1581年より1654年に至る「イエズス会士報告」を所蔵する。

(へ) スウェーデン

(1) ウプサラ大学

ツェンペリー(ツンベルク)の肖像画その他関係資料がある。またツェンペリーあて中川淳庵の書翰もある。

(2) ストックホルム王立図書館 Bibliothèques Royale de Stockholm

① 「ノールデンショルド日本文庫目録」

江戸時代の本草書を集めたものである。(上野益三「ノールデンショルドが日本で蒐集した本草書」『博物学史論集』八坂書房, p.543~554)

② 大英図書館所蔵のシーボルト文献の内容はノールデンショルドの目録によって知られる。

“Catalogue de la Bibliothèque Japonaise de NORDENSKIÖLD” (藤田喜六「大英博物館・大英図書館所蔵フォン・シーボルト・コレクション」『シーボルト「日本」の研究と解説』講談社,

1977. 1. 24, p. 59~81)

ノールデンショルドは 1879 年スウェーデン船の「ヴェガ号」で来航し、和書 6,000 冊を買ったといわれる。J. S. Edgren の目録 (1980) がある。

(3) ストックホルム自然史博物館

ヘルマン・トロチック夫人のイーダ・トロチックのコレクションがあり、日本産の蝶や蛾の標本である。

(ト) デンマーク

(1) デンマーク国立博物館(コペンハーゲン)

日本民俗資料 3,500 点を所蔵する。またブラムセン (Bramsen) コレクション中に日本の古銭があるという。(『来日西洋人名事典』日外アソシエーツ, p. 349)

(2) ヤン・ブール Jan Buhl コレクション

広重など浮世絵を集めたものである。(4)

(チ) スペイン

(1) イエズス会トレド管区文書館(アルカラ・デ・エナーレス)

元和三年イエズス会員コーロス徳収文書のうち豊後国南部、肥前五島関係文書がある。(松田毅一『キリシタン研究第二部論攷篇』p. 355~357)

(2) アルバ公文書館(マドリッド)

1568 年、フェルナンド・ヴァス・ドゥーラードがインド副王ドン・ルイス・デ・アタイデに献上した『世界地図帳』があり、その第 171 図は日本だけを描いた最古の図といわれる。

(3) イエズス会トレド文書館

奥州仙台のキリシタン関係文書がある。

(4) コルドバ市文書館

『コルドバ市会議事録』1614. 11. 27 条には慶長遣欧使節の記事がみえる。

(5) ゲンドゥライン伯爵家(パンプロナ)

1540. 9. 28 付のザビエル書翰を所蔵する。

(6) サン・カルロス神学校(サラゴサ)

文禄二年(1593)にレオンがローマ字で書いたスペイン教会関係者あて報告書があり、ローマ字による日本語文献としてめずらしい。茨木晃京都産業大教授によって紹介された。

(7) サン・ロレンソ王室図書館(エル・エスコリアル)

① ここにある 1600 年の国字による『倭漢朗詠集』は世界に一冊しかないキリシタン版であることは周知の事実である。

② “La vida del ysopet con sus fabulas historiadadas” 1489 は Steinhöwel 編イソップ寓話集のスペイン語訳本であり、『伊曾保物語』古活字本と関連するという。(遠藤潤一『邦訳二種伊曾保物語の原典的研究』風間書房, 1987. 2, p. 8)

(8) セビリャインド総合文書館

① 1602 年 9 月、土佐清水に漂着したイスパニア船エスピリツ・サント号の記録がある。(『鎖国』講座日本近世史 2, 有斐閣, 1981, p. 54)

② ドミニコ会コリャード関係文書と 1584. 6. 25 付マカオ発フランシスコ・カブラルのスペイン・ポルトガル国王あて書状が存在する。

③ 『ガルシア・デ・エスカランテ・アルバロード報告』(1548) (岸野久「ヨーロッパ人の琉球、日本来島に関する一資料」『日本歴史』438, 1984. 11, p. 58~)

④ 慶長 14 年 12 月 28 日付家康レルマ公あて書状および同 15 年 5 月 4 日付秀忠書状がある。(岡田章雄「近世初期の日欧交渉が日本古文書に及ぼした影響」『日本古文書学論集 II, 近世 I』p. 271, 274)

(9) セビリャ市文書館

伊達政宗のセビリャ市あて日本文書状(慶長 18. 9. 4) が市会議事録 1614 年 10 月の 8・15・27, 11 月 15・21 日にみえる。

(10) セビリャ大学

1590 年ゴアでラテン語 および ローマ字で書かれた『遣欧使節対話録』(De Missione Legatorvm Iaponensium) を所蔵する。

(11) バレンシア文書館 Archivo Municipal, Valencia

1615 年のフェリーペ三世あて伊達政宗書状(写本)がある。

(12) フランシスコ修道院パストラーナ文書館『日本布教のためのわれらの管区の諸記録』……“Papeles de nuestra provincia en favor de la misión de Japón” (稿本) を所有する。

(13) マドリッド王宮図書館 Biblioteca del

Palacio Real, Madrid

『1617 年日本年報』すなわちイエズス会年報の原本 1 部を所蔵する。

(14) マドリッド王立歴史学士院図書館

① 1585 年 6 月 14 日カズサにて識したルイス・フロイス『日本覚書』がある。松田毅一、E・ヨリッセン、フロイスの『日本覚書』中公新書、1983 年 10 月)

② 佐久間正氏訳のある「スペイン跣足派パードレの死に関して、在日本イエズス会のポルトガル人パードレのために聖アウグスチノ会修道士の述べた反駁書」がある。(『キリシタン研究』第十六輯, p.404~423)

③ Jesuitas Tomos のコレクション (224 巻) (岸野久「パストラーナにある 1623 年刊『ろざりよの終』と編訳者パードレ・ルエダについて」(同前書, p.189)

④ 「日本布教独占グレゴリウス十三世小勅書廃止運動の反論」……イエズス会文書、これは東大史料編纂所に複製写真がある。(高瀬弘一郎「キリシタン教会の貿易収入額について」『社会経済史学』40 の 1, 1974, p.23)

⑤ 日本司教ドン・ルイス・セルケイラの報告書中に、マードレ・デ・デウス号事件に関するものがある。(五野井隆史「1610 年長崎沖におけるマードレ・デ・デウス号焼打に関する報告書」『キリシタン研究』第十六輯, p.352~353) なお五野井氏には「ポルトガル商船焼亡に関する二種類のイエズス会文書について」『東大史料編纂所報』7 号, 1972 という論文もある。

(15) マドリッド国立図書館

① イエズス会年報の原本の一部が存在する。

② 1616 年 48 歳で死んだ大村喜前(よしあき)関係の『大村喜前棄教一件書類』がある。「松田毅一『黄金のゴア盛衰記』p.388~290)

(16) マドリッド国立歴史文書館

1587 年に平戸船乗組員が日本の風俗・社会を語ったものを記録したマニラ司教ドミンゴ・デ・サラササル署名の文書がある。(岡本良知『十六世紀における日本地図の発達』p.45, 100, 101)

(リ) ドイツ

(1) アルンシュタット宮殿(東ドイツ)
ギュンター公コレクションの中に古伊万里がある。

(2) キール図書館(西ドイツ)

明治憲法制定に貢献したローレンツ・フォン・シュタイン関係の文書があり、明治 15 年 6 月 3 日の福沢諭吉書簡が発見されている。(早島瑛「近代日本の形成とシュタインの関心」1979 年 11 月 20 日、朝日新聞による。)

(3) ゲッチンゲン大学図書館

① 大黒屋光太夫の江戸本船町白子屋清右衛門あて書状がある。

② アッシュ, Georg Thomas von Asch (1729~1807) コレクションに次のものがある。

(イ) 『日本語の会話の戸口』(Преддверие разговоров Японского) 1736

(ロ) 『露日語彙集』(1736)

(ハ) 『日本語会話入門』(1736)

(ニ) 『新スラヴ日本語辞典』(Новый Лексикон Славено-Японский) 1738

薩摩の漂流民ゴンザがペテルブルグにおいて、1736 年 9 月 29 日から 1738 年 10 月 27 日までに書きあげたもので、原本はソ連科学アカデミー東洋学研究所レニングラード支部にある。1985 年 5 月、日本のナウカ株式会社によりはじめて出版された。

③ シーボルト『日本』

④ 『安永八年日露交渉図』(Д.Я.Шабалин)……中村喜和「おろしや盆踊唄考」『一橋論叢』60 巻 1 号(1965, 7 月)による。

(4) ケルン東洋美術館(西ドイツ)

建長元年(1249)康円作の『木造地藏菩薩立像』をはじめ、釈迦・阿弥陀金銅仏、舍利容器、木版摺阿弥陀・地藏などを所蔵する。

(5) ケルン・ラウテンシュトラウフ・ヨースト民族学博物館

「カラフトアイヌのお守り」を含むアイヌ資料 233 点と、日本民俗資料 100 点がある。

(6) サン・スーシー宮殿(ポツダム)

古伊万里のコレクションがある。

(7) シャルロテンブルク宮殿(西ベルリン)

中国、日本の柿右衛門などをおく「磁器の間」がある。

(8) Sächsische Landesbibliothek, Dresden

1568 年 Diogo Homem 作のアトラスが存在する。(岡本良知『十六世紀における日本地図の発達』p.17, 19)

(9) ツヴィンガー宮殿, Zwinger, (ドレスデン)

アウグスト王の古伊万里コレクションがあり、1975 年 3 月に西日本新聞社の主催で「里帰り展」が開かれた。

(10) ニュールンベルク博物館

1492 年マルチン・ベハイムの作製した現存最古の地球儀があり、「チパング」は大陸から独立した大きな島として描かれた。

(11) バイエレン国立図書館

1580 年のフェルナン・ヴァス・ドゥラードの「世界図」がある。(岡本良知前掲書, p.156) またシーボルトのツッカリニ教授あて書翰 70 通がある。(1833~47, 日本植物 Flora Japonica について)……板沢武雄『シーボルト』p.162 による。

(12) ハンブルク国立公文書館

マルティン・ヘルマン・ギルデマイスター, Martin Hermann Gildemeister の報告書 (1858~68) 11 通を所蔵する。(生熊文「幕末在日ドイツ商人の日本レポート, 『日本歴史』468 号, 1987. 5, p.87~93)

(13) バイエレン州立図書館

上田秋成の書入れのある『古今集』がある。

(14) ヴァイセンシュタイン城 (西ドイツ, ポンメルスフェルデン)

ここにも伊万里を含む「磁器の間」がある。

(15) バーデン地方図書館 (カルルスルーエ)

『ポイク旅行記』は 1609.7.27~9.13 平戸から駿府へ、同年 10.3~11.7 の平戸からパタニへの旅行の記録である。金井圓「ニコラース・ポイクの駿府旅行記」(『日蘭交渉史の研究』p.93~)

(16) ハンブルク民族学博物館

日本民俗学資料 5,000 点とアイヌ資料 800 点を有する。

(17) ビッテルスバッハ補償基金(ミュンヘン)

狩野内膳の『南蛮人交易図』(桃山時代) がある。(毎日新聞社『在外日本の至宝』第四巻障屏画, 118・119 図)

(18) ヴィンツィンガー家 (Franz Winzinger, レーゲンスブルク) 浮世絵のコレクションがあり、「リッカー美術館 12 開館周年記念特別展」で展示された (1983 年 9 月~10 月)。

(19) フライブルク西ドイツ連邦文書館・軍事史料館

① 1860 年来日時のオイレンブルクや 1863 年来朝のレーフェスの記録をのせた『プロシア東アジア遠征記』がある。(沼田次郎「ソ連・西ドイツ・オランダにおける日本関係史料の探訪について」『東大史料編纂所報』第 5 号)

② ブロイディガム書状……1927.1.10, 神戸, Uボート建造に関するもの。

③ 『ベネッカー戦時日誌』……1940 年 2 月 26 日来日したドイツ大使館付武官 (当時 49 歳) の日誌であり、ゾルゲへの情報提供者といわれる。別に『ベネッカー報告書』(1940.11.12) もある。

(20) フライブルク民族学博物館

日本民俗資料 2,000 点とアイヌ資料展示コーナーがある。

(21) プレーメン海外博物館

日本民俗資料 2,000 点とアイヌ資料 174 点がある。

(22) ベルリン東洋美術館 (西ドイツ)

① 歌麿『見るが徳栄花の一睡』

② 一勇斎国芳『勸進帳』

③ 北斎『下野黒髪山霧降滝』

④ 『天稚彦草紙』(室町)……土佐広周の絵

⑤ 『筆園佚遊』……56 図, 狩野探幽とそのおいの常信が画いた。(ベッティナー・クライン, 児島薫訳「ベルリン東洋美術館蔵縮図画帖『筆園佚遊』『国華』第千九十一号」, p.29~)

(23) ボン大学

① トラウツ文庫は俳書・地誌を含む。

② エゾ地地図……高橋作左衛門の作成になるもので、1986 年 12 月地下室より発見された。(NHK『歴史ドキュメント』⑤, p.89)

(24) マールブルク大学

山崎宗鑑の『犬筑波集』がある。

(25) ミュンヘンレジデント

伊万里の色絵壺を含む中国・日本の磁器を収蔵する部屋がある。

(26) ミュンヘン国立民族学博物館

① 日本民俗資料 7,000 点とアイヌ資料 50 点がある。

② シーボルトが二回目に来日したさい蒐集した薬物標本や小森肥後介の女から京都で贈られた団扇が残されている。

(27) ミュンヘン州立図書館

① 上田秋成書入れのある『古今和歌集』(二冊本)がある。

② 平田篤胤自筆の『稻生物怪録』がある。

(28) ライス博物館(西ドイツ, マンハイム)

川原慶賀が画いた『出島図』(天保四年, 1833)がある(前掲『出島図』p.157)。

(29) リッペ図書館(西ドイツ)

ケンペル所蔵の『署名簿』がある。元禄三年午十月廿六日ナムラゴンハチ智能, 江戸着二月十四日タナカヘエモン広重 などとある。(沼田次郎「エンゲルベルト・ケンペル旧蔵の署名簿について」『日本歴史』1978, 1月号, p.113~118)

(30) リンデン博物館(シュトゥットガルト)

日本民俗資料 10,000 点, アイヌ資料 500 点を所蔵する。

(31) ルプレヒト旧親王家(ミュンヘン)

『南蛮屏風』があるが, 六曲屏風のうち片双のみである。

(32) ルール大学東亜学部

① シーボルトがオランダ語に抄訳した『三国通覧図説』蝦夷の部の稿本がある。

② 旧ベルリン日本学会所蔵のシーボルト関係資料(一部)が存在する。(沼田次郎「ルール大学東亜学部所蔵シーボルト関係文献略目録」『近世の洋学と海外交渉』p.70~82)

(33) モーリッツ城(東ドイツ)

古伊万里を所蔵する。

(34) 西ドイツ国立図書館東アジア部(西ベルリン)

① 山崎宗鑑自筆の『犬筑波集』

② お伽草子絵巻……月王・乙姫物語, 元興寺縁起, 役の行者, 蓬萊物語, おちくぼなどである。(『西ベルリン本お伽草子絵巻集と研究』未刊国文資料, 昭和56年)

③ アンドレアス・クライアーの Flora Japonica

④ 江戸版の『本草綱目』があり, これはクリスチャン・メンツェルの遺産である。

⑤ ヨコハマに来た英国商人ホッジスのコレクションがある。

⑥ 東京帝国大学の解剖学教授であったウィルヘルム・デーニツの遺品がある。

⑦ その他バルハウゼン, ローゼンフェルト, オッター・カーロウのコレクションがある。

(ヌ) フランス

(1) アカデミー・フランセーズ

1595年の『ラテン語日本語辞書』を所蔵する。

(2) アンギャンベルティエヌ図書館(カルパントラ)

支倉六右衛門関係文書は羊皮紙六葉から成立している。(富田仁・西堀昭『日本とフランス』p.34~36)

(3) イルストラシオン社(パリ)

日露戦争のさいの「仁川における第一軍の上陸」「軍用列車」の中「駅頭での出征軍人と家族の別れ」などビゴアのイラストが保存されている。

(4) 海外伝道協会図書館

1885年, リヨンの『ミッションカトリック紙』にのった A.T. フォルカードの『滞琉日記』がある。また 1858 年来日したメルメ・デ・カシヨンの資料もある。

(5) ギメ美術館

ゴンクール, ビュルティ, ゴンス, ヴェヴェール, ドカモンドの浮世絵コレクションなど日本美術の蒐集で知られるが, 『さごろも』(写本3冊), 『酒呑童子』『頼光大江山入』などお伽草子を所蔵している。(『御伽草子の世界』奈良絵本国際会議編, 三省堂, 1982, p.259)

(6) フランス近代美術館(パリ)

明治32年から米・英・仏各国を巡業し, パリ万博のさい, 舞台でおどる川上貞奴をピカソがデ

ッサンしたものが保存されている。

(7) グルノーブル大学図書館

日本近代法制定につくしたボアソナードの手稿が残されている。

(8) セーブル陶器学校

高島北海の『花鳥図』が 10 枚ある。

(9) セリニャン教会堂 (南仏, エロー県)

1637.9.29 殉教したギョーム・クールテラの拷問のありさまを画いたものがある。『長崎殉教者への拷問(針ざし)説明図』である。(富田仁『日仏のあけぼの』p.101)

(10) 装飾美術館 (Bibliothèque du Musée des Arts Decoratifs, パリ)

『さごろも』(奈良絵本) 3 冊がある。

(11) チェルヌスキ美術館 (パリ)

『時雨物語』(奈良絵本) 3 冊がある。

(12) 中央技工学校同窓会

日本のガス灯の祖といわれるアンリ・オーギュスト・プレグラン (1841~82) の略伝を保存する。なお南仏のボレーヌ町役場にはプレグランの『戸籍』も残されている。

(13) トゥルーズ図書館

1605 年長崎で黒朱二色で印刷された『サカラメント提要』がある。(『日本思想大系キリシタン書』岩波書店にのせられている。)

(14) アンバリッド廃兵院 (パリ)

元治元年 (1864) の四国連合艦隊下関砲撃事件のさい、長州藩の大砲が国外に持ち去られたが、昭和 41 年にここで発見された。天保十五年萩の郡司喜平治の作で先年里帰りがしたことがある。

(15) パリ学士院図書館

1595 年天草で刊行された『拉葡日対訳辞典』がある。

(16) パリ国立図書館 Bibliothèque Nationale

① Domingos Teixeira の『世界地図』(1573) がある。(岡本前掲書, p.18, 19)

② 1603 年の “Vocabulario da Lingva de Japam” がある。(『邦訳日葡辞書』岩波書店)

③ サン・トロペ入港のさいの支倉六右衛門関係の記録がある。

④ ビアトが撮った徳川慶喜の写真がある。

⑤ 東洋写本部コレクションとして次のものがある。『西行法師』(奈良絵本, 以下同じ), 『よこぶえ』, 『七夕』『百合若大臣』, 絵巻物として『浦島太郎』などである。

⑥ 木版画室 Cabinet des Estampes にはデュレー Duret 旧蔵のお伽草子類がある。『ふみあらひ』『金平物語』『景清三代大坂巡礼』はほんの数例である。(鳥越文蔵編『パリ国立図書館蔵古浄瑠璃集』校倉書房, 1968)

⑦ 1812 年パリで死んだティツィングの『遺品目録』には浮世絵『日本における婚礼と葬式』や、1822 年の『日本図会』, 1820 年の『将軍国の想い出と挿話』がみえる。

⑧ 『落葉集』の断簡がある。(Joseph, K. Yamagiwa: Revisions in the Rakuyōshū at the Time of It's Printing in 1598. (“Monumenta Nipponica, Vol XI, No.2, 1955))

⑨ 文政 9 年 (1826) 江戸参府をしたオランダ商館長ヨハン・ストウルレルの子 W.L. ストウルレルが寄贈した葛飾北斎の『水彩画』25 枚が最近発見されている。(東洋写本室「ジャポネ 382」)

(17) パリ第三大学

ロニーのコレクション中に 2 冊の『アルバム』があり、1984 年 10 月『の福沢諭吉展』(三越本店) に展示された。(『生誕 150 年記念福沢諭吉展図録』p.51)

(18) パリ人類学博物館

モンタンドンのコレクション中にアイヌ資料が存在する。

(19) ビゴ一家

パリ郊外ビエールにはジョルジュ・ビゴの曾孫ラファエル・ルワゾン・ビゴ氏が健在で、ビゴの「スケッチ」など多くの資料を保存されている。これらを中心に 1987 年 3 月から横浜そごう美術館をはじめ各地で展覧会が開催された。(『明治日本を生きたフランス人画家ジョルジュ・ビゴ展図録』)

(20) ブザンソン市立博物館

松前藩家老の蠣崎波響が寛政二年に画いた『夷酋列像』11 点がある。(1 枚欠)

(21) フランス海軍歴史資料館

横須賀製鉄所資料がある。(富田仁・西堀昭『横須賀製鉄所の人びと』有隣堂, 1983)

(22) フランス国防省陸軍資料館(パリ郊外) シャノワヌ・ファイルに『列藩同盟のフランス軍事顧問団あて招聘状』がある。またブリュネの『報告書』『スケッチブック』が保存されている。

(23) フランス写真協会

1864年のコロジオン湿板による『サムライ松浪権之丞』を所蔵する。(『写真の源流 1822~1906, フランス写真協会秘蔵展図録』p.95, 1984.3.2~7, 銀座松屋で開催)

(24) パリ東洋学校

1868年以降のものと思われるロニーの『アルバム』が校長室に保管されている。

(25) ヴィヨ家(パリ17区バティニョル街)

ルイ・フェリックス・フロラン関係資料がある。横須賀製鉄所内のフロラン執務室の写真などである。(富田・西堀前掲書, p.44)

(26) ヴェルニー家(オーベナ市ポンドーベナ)

レオンス・フランソワ・ヴェルニーの夫人はレオン・ロッシュのめいにあたり, ロッシュの書簡がある。

(27) マルゲリット・シャノワヌ家(パリ西南リュブレ村)

久米邦武編の『米欧回覧実記』の初版本5冊がある。また鶏卵紙写真37枚があり, 衣冠束帯姿の『徳川慶喜像』をはじめ, 成島柳北, ブリュネ, 大久保利通, 徳川昭武, 田辺太一等の写真が含まれている。その他『日本国に送る軍事顧問団武官の規則書』や, 日露戦争関係資料として, 新聞の切り抜き, フランス雑誌, ロシアのカメラマンの撮った写真がある。(鈴木明『追跡』集英社, p.151, 157)

(28) ミュゼ・ド・ラルメ(サロン・ド・プロバンス, 軍事博物館)

① ラウル・ジャン・ブリュノンコレクションがある。

② デシャルム資料として, 地図・書簡・写真がある。(東大史料編纂所にマイクロ・フィルムあり)(植木二葉「南仏軍事博物館を訪ねて」……

『歴史と人物』1984.10月号, p.29~30)

(29) モネ美術館(パリ郊外ジヴェルニー)

モネ・コレクションは浮世絵版画233枚を所蔵する。(『モネと浮世絵展図録』1983.10.12~30, 日本橋三越で開催)

(30) 郵便博物館 Musée Postal

横浜フランス郵便局関係資料があり, 『郵便月報』Bulletin Mensuel des Postes』の1864, 108号から1878, 109号, 1880, 23号の『公告』などがある。(Raymond Salles “Le Bureau Français de Yokohama”, 1865~1880〔松本純一訳注〕p.35~55)

(31) リール市立図書館

レオン・ド・ロニー(1837~1914)の蔵書が最近発見されている。『古事記』, 『古今集』, 『伊勢物語』, 『絵本太閤記』, 『西洋事情』, その他人情本がある。(パリ寺島特派員「レオン・ド・ロニーの日本蔵書見つかる」『毎日新聞』1985.7.23夕刊)

(ル) ベルギー

(1) メンゲルムンステル城(西フランドル州)

モンブラン関係史料(高橋邦太郎筆写)がある。『鳩翁道話伝訳』, 『商売往来』, 『武鑑類』等もある。

(2) ブリュッセル王立図書館 Bibliothèque Royal de Bruxelles

1613年 Manuel Godinho de Eredia 作の楕円形世界図がある。(岡本前掲書 p.245, 203)

(3) ブリュッセル王立美術館

写楽の画いた『とら屋虎丸(奴なみ平)』や, 市川高麗蔵の『相模次郎』がある。

(4) ベルギー王立美術歴史博物館

エドモンド・ミショット・コレクションがあり, 歌麿の『名所腰掛八景』(八枚連作)をはじめ, 豊国・勝川春章・春好春英らの作品, 写楽の『二代瀬川富三郎の大岸蔵人の妻やどり木』等多数を所蔵している。北斎・広重もある。(『謎の絵師写楽展図録』(1986年1月, 銀座松屋で開催)

(5) ボランディスト図書館 Bibliotheque des Bollandistes (ブリュッセル)

1613年度のラテン語でかかれた『イエズス会年報』の原本一冊がある。(磯貝辰典「ベルギーに

おける日本関係史料』『上智史学 No. 20, p. 120)

(ヲ) ポーランド

(1) クラクフ市国立美術館

歌川豊国『の両国広小路図』がある。

(2) ショワイスキー館 (クラクフ)

フェリックス・ヤシェンスキーのコレクションになる浮世絵 5,000 点を所蔵する。

(3) ポズナニ大学

アイヌ・ニヴフ・ウィルタの民俗に関する蠟管 62 本があり、プロニスワフ・ピウスツキが録音したものである。

(4) ポーランド科学アカデミー図書館 (クラクフ)

ピウスツキの原稿・未定稿・野帳、そして『アイヌの言語・フォークロア研究資料』(1912)がある。

(ワ) チェコ

(1) ナブルステク博物館 (プラハ)

日本民俗資料 5,000 点がある。

(カ) フィンランド

(1) スオメリナ島 (ヘルシンキ付近)

明治 31 年に呉海軍造兵所が製造したキャノン砲が存在する。

(ヨ) ギリシア

(1) ゲナディオ図書館 (アテネ)

ハインリヒ・シュリーマン (1822~90) の “Le Chine et le Japon”, 1868, パリがある。(藤川徹訳『日本中国旅行記』雄松堂書店)

(補注 A) 画家ホイスラーの展覧会があり、その作品中に『ノクターン・青と金』(1872~3 ごろ)があり、広重や北斎の『富嶽百景』の「万年橋」との類似が指摘されている。ロンドンのテートギャラリー (The Tate Gallery) の所蔵である。(『ホイスラー展 図録』 p. 61, 伊勢丹, 1987, 9 月)

(補注 B) (イ) イギリスの (16) バーリーハウスにエクスター侯爵のコレクションがあり、その中に 17・18 世紀の「古伊万里」「柿右衛門」がおよそ 300 点あることが最近わかった。1987 年の 10 月 3~20 日, マリオン西武 B 館で「里帰り展」

が開かれた。1688 年の『財産目録』は日本磁器輸出史上の貴重な史料である。(1987. 9. 24 『朝日新聞夕刊』および同展『図録』による。)

(補注 C) (ニ) オランダ (21) の国立民族学博物館の所蔵する日本書 789 部については杉本つとむ「日本書仮目録草」(『早稲田大学図書館紀要』第 26 号, 昭和 61 年 3 月, p. 250) がある。また (22) のライデン大図書館の日本書については L. セルリエの『日本書目録』がある。

(注 1) シーボルトの専任画家といわれる川原慶賀の作品は『ニッポン』のさし絵として一部用いられているが、西武美術館は 1980 年 4 月と 1987 年 1 月の 2 回にわたり里帰り展を開催し、図録によって保存状態のよい慶賀の作品を見ることができ。

(注 2) 保存されていた 800 枚の写真から写真集『甦る幕末』朝日新聞社, 1986 が刊行されている。

(注 3) 190 余点からなる『シンドラー・コレクション浮世絵名品展』が 1985 年 10 月, 銀座松屋で開かれ、『図録』も刊行されている。

(注 4) 木版画浮世絵の、日本をのぞいて最大最良といわれるコレクションの一部が『浮世絵ヤン・ブルコレクション, 広重と稀品』と称して太田記念美術館で, 1986 年 4 月~5 月開催された。(同展『図録』参照)

(注 5) ボン大学では 1987 年 6 月, アイヌ研究の国際シンポジウムを開き, ウィーン・シュツットガルト・ブレーメン, マンハイム, エジンバラ, ホーニマン博物館 (ロンドン) などの資料調査を行なった「報告書」はまとめて出版されることである。(ヨーゼフ・クライナー「ヨーロッパで進むアイヌ研究」, 『朝日新聞』1987. 9. 28 夕刊による。)

(タ) ポルトガル

(1) アジュダ図書館 Biblioteca da Ajuda (リスボン)

1635 年のイエズス会史料と、日本の不動産のカタログとがあり、ともに東大史料編纂所に複製写真がある。(高瀬弘一郎「キリシタン教会の貿易収入額について」『社会経済史学 40~1, 1974, p. 18)

その他、日本語・ポルトガル・ローマ字により1620年マカオ刊の『日本小文典』や、『日葡辞書』2種を所蔵する。すなわち、1603~4、長崎の写本、および1749年マカオで刊本を写したものである。(土井忠生他編『邦訳日葡辞書』岩波書店、p. 28~29)

(2) エマヌエル王家文庫

ヴァリニャーノの『カテキズモ』(1586, リスボン)がある。

(3) エヴォラ公共図書館 Biblioteca Pública de Evora

『ドン・フランシスコ・マスカレーニャス文書集』(1615~26)や1622年度『日本年報』,そしてラテン・ポルトガル・日本語による『拉丁文典』(1594年, 天草)を所蔵する。有名な『屏風文書』については、海老沢有道・松田毅一『ポルトガルエヴォラ新出「屏風文書」の研究』(ナツメ社)にくわしい。

(4) エルヴァス市立図書館 Biblioteca Municipal de Elvas

1548年の夏にアンジェロがのべ、ランチロットが編した『日本情報』がある。(岸野久「来日前ザビエルに提供された日本情報」『キリシタン研究』第二十一輯, 吉川弘文館, p. 203~)

(5) 外務省文庫 Biblioteca do Ministerio Negócios Estrangeiros

『日本インド書翰集』一冊はもとコインブライエズス会学院所蔵本である。

(6) コインブラ大学図書館・文書館

① ルイス・セルケイラの長崎発1610年10月10日, ポルトガル管区長あての自筆書翰。

② 1610年10月17日長崎発フランチェスコパシオの自筆書翰, を所蔵する。

(7) トレ・ド・トンボ文書館

1570~82年の『日本イエズス会書翰集』と, ラテン・ローマ字で1590年ゴアで作られた『遣欧使節対話録』がある。

(8) パッソス・マヌエル中学校

ヴァリニャーノの『カテキズモ』“Catechismus Christianae Fidei” 1586がある。

(9) ヴィラ・ヴィソザ・ブラガンサ家宮殿文庫

ヴァリニャーノの『日本のカテキズモ』(1586, リスボン)があり, またこの宮殿で天正少年使節一行が歓待された。

(10) ブラガンサ(Bragança)公財団博物館

1599年のイエズス会の『布教書』がある。

(11) ポルトガル国立古代美術館(リスボン)

『南蛮屏風』を所蔵する。(『近世風俗図譜』13, 南蛮, p. 73)

(12) ポルト公共図書館

『聖教精華』Floscvliがあり, ラテン語・ローマ字で書かれ, 1610年長崎刊である。

(13) マノエル文庫……前国王の文庫で、『ぎや・ど・ぺかどる』1599年がある。(下巻のみ)

(14) Museu de Marinha(リスボン)

ルイス・テイシェイラの1585年作製の『世界図アトラス』が残されている。(岡本良知『十六世紀における日本地図の発達』p. 48)

(15) リスボン科学学士院図書館

Lázaro Luis 作アトラス(1563)がある。(岡本前掲書, p. 28, 29)また1548年夏アンジェロ述ランチロット編『日本情報』(第一)がある。

(16) リスボン国立図書館 Biblioteca Nacional

『日本関係書翰集』二冊はイエズス会コインブラ学院書翰集の第二・三巻にあたる。

『マカオ司教区史資料集』, 『日本司教区史資料集』も発見されている。

(補注D) (ニ) オランダの(21)のシーボルトコレクションについて, 久米氏は『百万塔』第68号(昭和62年8月)に「シーボルトと和紙」をのせ, 同年11月14日の法政大学フォン・シーボルト研究会でも「ライデン民族学博物館所蔵のシーボルト収集和紙について」を発表された。

[以上]